

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491900054	事業の開始年月日	平成21年4月1日
		指定年月日	平成21年4月2日
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター横須賀佐原		
所在地	(〒239-0835) 神奈川県横須賀市佐原1-4-20		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和2年11月17日	評価結果 市町村受理日	令和3年1月8日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方と親交を深めご入居者様が安心して暮らせるように私達職員は日々ご入居者様に寄り添い共に過ごしています。
ご入居者様のADLの向上にむけ、ご自身の出来る事をサポートし室内で出来る運動やレクリエーションなど開催しメリハリのある、楽しく笑顔の多い生活を送っています。
近くにはスーパーもあり、ご入居者様の欲しい物などすぐにご要望に添えることが出来、食事に関しては管理栄養士がメニューを監修し、手作りの物を提供しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和2年11月30日	評価機関 評価決定日	令和2年12月29日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所概要】 この事業所は、京浜急行線北久里浜駅からバスで5分の佐原橋で下車し徒歩3分程の住宅街に立地している。鉄骨3階建ての建物の2、3階が当事業所で、1階にデイサービスと訪問介護の事業所を併設している。近隣のスーパーマーケットやファミリーレストランへ、利用者が家族等と買物や外食に出かけている。 【利用者、家族等の意見の反映】 毎月「佐原新聞」を家族などに送り、利用者それぞれの様子を伝えている。家族の来訪時の会話や運営推進会議、法人が実施する顧客満足度調査で要望・意見を把握し、反映に努めている。「往診に立ち会いたい」という家族の要望に応じ、「佐原新聞」に往診の日時を掲載して、家族が往診に同席できるようにしている。また、「脳を活性化させるようなレクリエーションをして欲しい」という家族の要望に応じ、漢字やことわざクイズなどを実施している。 【センター方式を活用した本人本位の計画作成】 アセスメントや日々の関わりの中で「カラオケがしたい」、「ゆっくりしたい」、「買物がしたい」など、利用者の様々な希望や意向を把握している。意向の把握が困難な場合は、利用者の行動や表情、記録を確認しながら汲み取っている。職員は、利用者の発した言葉に注力し、寝言までも拾い上げ介護記録などに残し共有している。センター方式を活用して、利用者のこれまでの暮らしや思い、現状を把握して介護計画の作成につなげている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ニチイケアセンター横須賀佐原
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をミーティング時に唱和し、さらに各ユニットの入口に提示することで共有し意識付けに努めている。	管理者の異動を機に、職員の意見を取り入れて「向上心とチームワークを大切に、心が通じ合う介護を目指します」など4項目の事業所の理念をつくり、事業所内に掲示し、ミーティング時に唱和して共有している。管理者は、一人ひとりのペースに合わせた介護を念頭に置き、利用者の気持ちを尊重したサービスの提供を目指し、理念の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ホームの活動状況を伝えることや、文化祭で作品を展示させていただいている。 日々、ご近所の方に挨拶は欠かさずに出来ている。 	佐原町内会に加入している。町内会副会長（民生委員を兼務）とLINEを介して町内会の情報などを得ている。10月に町内会で開催した文化祭の行事に作品を出品して地域の方と交流している。新型コロナウイルス感染予防のため、中学生の福祉体験学習や紙芝居、フラダンス、吹奏楽などのボランティアの受け入れ、敬老会などの催しへの参加を中断している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設のパフレットを利用して地域の方からの相談を受け、活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催しその都度状況を報告している。又、意見や要望があれば、その後の業務に活かしている。	運営推進会議は、奇数月に開催している。家族代表、民生委員2名（1名は町内会の副会長を兼務）、地域包括支援センターの職員、市の職員、事業所の職員がメンバーとなっている。事業所や町内会の活動報告などを行い、その内容について話し合っている。町内会の方とクリスマス会の開催に向けて、新型コロナウイルス禍での3密対策などの相談をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	判断に迷う時や分からない事等は横須賀市高齢福祉課、地域包括支援センターへ助言を頂きながら進めている。	市の担当職員とは、判断に迷った時などに相談したり、外部評価結果の報告や運営推進会議の議事録を持参するなどして協力関係を築くよう努めている。市主催の感染症の講座に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修を毎月行い、学ぶ機会を持っている。身体拘束をしないケアを実践している。	併設している同一法人のデイサービス等の事業所と玄関は共同のため、昼夜とも施錠している。ユニットの扉は日中開錠している。役割がなくなるとそわそわする等、帰宅願望のある利用者の特徴を把握し、職員が寄り添い傾聴している。毎月、研修や身体拘束廃止委員会を通して、虐待や身体拘束をしないケアの確認をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を毎月行い、学ぶ機会を持っている。虐待を見逃さない環境を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間行事に取り入れ、研修を行い学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行ないその都度確認をしながら納得を頂いた上で進めるように常に心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回顧客満足度アンケートを実施している。 ご家族様の訪問が難しい状況であることから、おたよりや電話で意見交換を行い、運営に反映をしている。	毎月「佐原新聞」を家族などに送り、利用者それぞれの様子を伝えている。家族の来訪時の会話や運営推進会議、法人が実施する顧客満足度調査で要望・意見を把握し、反映に努めている。「往診に立ち会いたい」という家族の要望に応じ、佐原新聞に往診の日時を掲載して家族が同席できるようにしている。家族の意見を聴く機会でもあった敬老会やクリスマス会は新型コロナ感染予防のため開催を中止している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、全体ミーティングと各ユニットでのミーティングを開催し職員が意見や提案ができる場を設けている。 ・必要があれば改善をしている。 ・連絡ノートを活用している。 	連絡ノート、月1回の全員参加の全体ミーティングやユニットごとのミーティングを開催して意見や提案を吸い上げ、利用者のケア等に反映している。管理者は、年1回の個人面談のほか、気にかかることがあれば随時職員から話を聞いている。職員の悩み対策として「ストレスチェック」を実施している。「緊急時に管理者と連絡がつかなかった時の対応の明確化」を求める意見に応じ手順を明確にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個人面談を実地し、就業環境、条件等の確認をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染防止の観点から外部研修には参加していないが、社内研修を行うことで職員個々のスキルアップに繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新型コロナウイルス感染防止の観点から相互訪問や勉強会についてはできていないが、パソコンサイトを利用して情報交換を行なっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を使用して、ゆっくりと時間をかけながら聞き取りをするようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に十分な説明を行い、不安があればどんな些細なことであっても丁寧に対応し、不安を解消するように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	双方から話を伺いながらセンター方式を使ってアセスメントを行い必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ニチイケアセンター横須賀佐原の基本理念を常に意識するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	オンラインによる面会、相談室を利用しての面会で家族と本人を交えた環境で希望や要望等を聞き共に本人を支えていく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染防止の為、オンラインによる面会、相談室を利用しての面会、電話でのお話しを通じてこれまでの関係が途切れないように支援している。	友人が来訪し馴染みの人との関係を保っている。家族の対応で墓参りや馴染みの美容院などに出かける方もいる。入居前からの生活習慣で、新聞購読やカラオケなどを要望し継続している方がいる。新型コロナウイルス感染予防のため馴染みの人との面会や馴染みの場所への訪問を中止している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し席替えなどを行い支え合えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も電話相談等を受け付け、必要に応じ支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の表情、観察と会話の中でご本人の気持ちを汲み取りセンサー方式を活用し一人ひとりがどのような希望を持っているかを検討している。	アセスメントや日々の関わりの中で「買物がしたい」、「ゆっくりしたい」、「歌が好き」など、利用者の様々な希望や好みを把握している。意向の把握が困難な場合は、二者択一や簡単な言葉に置き換えたり、利用者の行動や表情、記録を確認しながら汲み取り、その情報は職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使用しご本人の気持ちから聞き取りで分からないことはご家族や以前関わっていたケアマネジャーからも聞き取りをして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用すると共に各ユニットミーティングで話し合いを行い現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族への聞き取りを行なうと共に医療関係者の意見も参考に職員とカンファレンスを行なう。日常支援シート評価の作成のもと介護計画書を作成している。	短期目標6ヵ月、長期目標1年の介護計画を作成している。モニタリングを行い、利用者の状況について意見交換して計画作成につなげている。介護計画は通常6ヶ月で見直し、状況に変化があればその都度見直している。「穏やかに過ごしてほしい」などの家族の意向や医師等からの情報も反映し、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、介護日誌に落とし込みユニットミーティングにおいて共有し介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療関係者のアドバイスを受け健康管理に努めている。また、定期的な口腔ケアの利用などもニーズに応じて取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止の為、外出が困難となっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を受けている。医療情報は職員間で共有、訪問看護師やご家族様にもお便りを通じて伝えている。	かかりつけ医の選択は自由で、以前からのかかりつけ医や協力医療機関の医師の往診を受けている。看護師が毎週訪問し健康管理をして「医療連携報告書」で情報共有している。歯科医師が訪れ、治療や口腔ケアなどを行っている。専門医の受診は職員又は家族が同行している。診察の結果は連絡ノートや介護記録に記載して内容を共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師にその都度、医療連携報告書へ記入していただいている。また、口頭での情報共有も行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は早い段階でご家族、病院側と連絡調整を行い早期退院に向けて病院関係者と連携を密に取るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医と相談し、その結果をその都度ご家族へ報告をしている。また、今後の見直しなどを話し合い、方針の見直し、情報の共有に努める。	利用開始時に「重度化した場合における対応に係る指針」で事業所の方針を家族などに説明し、共有している。重度化した時は、協力医療機関の医師などと連携して、家族などの希望を再確認しながら、利用者の状況に応じた対応をしている。看取りの実績があり、研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の訓練を行なっている。内1回は消防署立会いのもと訓練し急変や事故発生時の対応など職員は実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。地域（会長・民生委員）からアドバイスを受け訓練の時に活かしている。	年2回避難訓練を運営推進会議と同じ日に開催し、地域の方の協力を得ている。9月は夜間の火災を想定し、11月は併設の事業所と合同で訓練している。災害マップでリスクを把握している。災害時の備蓄品は法人が管理し供給している。熱源のカセットコンロとボンベ、食料（水、五目御飯、白がゆ、乾パン、魚の缶詰など）を「非常食管理台帳」を作成し管理している。飲料水などの食品類は、3日分を準備している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コンプライアンスや高齢者虐待防止の研修を行なうと共に、フロアミーティングでも確認している。	コンプライアンスの研修で人格の尊重などについて学んでいる。トイレ介助の声かけは「遠方へ行きませんか」と言い変えたり、耳元で声を掛けている。また、入浴時はタオルを使って肌が見えないようにして、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。利用者の呼称は苗字を基本としている。リビングで記録する書面は利用者氏名をフルネームではなく、一部のみローマ字で記載している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	雑誌や本などを活用しながら話しの中で希望、自己決定ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望があればその都度対応している。又、希望が訴えられない方には、アセスメント、介護記録等からリズムの把握に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人希望の化粧品、衣類など本人、家族と相談しながらおしゃれができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事にあった食事を提供している。また、盛り付けなど目でも楽しめるように心がけている。食事準備などできることへの支援を行なっている。	配食業者の献立に従い職員が調理をしている。正月は特別メニューが提供されるなど、季節の行事に応じた献立になっている。「なめらか食」など形態を変えた食事も提供している。利用者は、玉葱の皮むきなどの下ごしらえや食器拭きなどを行っている。利用者が好む寿司や鰻の出前を取り、食事を楽しむ機会を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養スクリーニングシートを作成している。個人記録や水分表を確認し水分補給が思うように取れない場合は、本人の嗜好に合わせた飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを声かけ、実施している。また、歯科医師の助言、指導のもと口腔状態の把握に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を行っている。	職員は「排泄表」で利用者のリズムを把握し、トイレでの排泄を促している。夜間は、不安解消のためリハビリパンツからおむつの使用に変える方や時間でトイレ誘導する方など、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維などを食事の中に取り入れる等、食材業者や医療関係者に相談し予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴表を活用し、ご本人様のタイミングや体調に合わせた入浴ができるように支援を行っている。	利用者は、概ね3日に1度入浴している。入浴を好まない方には、タイミングを見計らい、声かけをする職員を替えるなどして入浴を促している。現在、毎日の入浴を希望する方はいない。同性介助の対応は可能である。1対1になれる浴室で職員と会話したり鼻歌を唄うなどで入浴を楽しむ方がいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣を尊重し、日々の体調変化を見逃さないように努めている。さりげなく休憩を促すなどの支援をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ファイルを活用し、職員がいつでも回覧できるようにしている。処方変更時には申し送りをし、介護日誌を活用して情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションの提供。センター方式をもとにそれぞれができることへのサポートを支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症予防の観点から現在はできていない。	日常的に公園や近隣のスーパーマーケットに散歩や買物に出かけている。年間行事開催予定表に基づき、歩行が困難な利用者も車椅子などを使用して外食や地域行事の納涼祭などに出かけている。新型コロナウイルス感染予防のため現在は、外出を中止し、室内でのレクリエーションの充実を図っている。	新型コロナ禍以前は、家族などに協力を依頼し普段は行けないような場所への外出の機会が増えつつありました。新型コロナウイルス感染が終息した際には、外出の機会が引き続き増すよう取り組まれることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルス感染症予防の観点から外出をしていない。現在はできていない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人、家族からの電話、手紙のやり取りができるように支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節、イベントに応じて飾りつけなどを行い、共有空間の工夫をしている。	専門業者に依頼して年2回、床や窓など室内のハウスクリーニングをして清潔を保っている。冬季は加湿機で湿度を調整している。また、フェルトで花を形どった手製の簡易加湿器を各所に置いて楽しんでいる。換気に配慮し窓の開閉を行っている。鏡餅や雛人形などを手作りして飾り、季節を感じられるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓側部分に共用空間があり、過ごす事ができる。個々の居室でも自由にすごしていただいている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時にご本人、ご家族と相談をしながら、使い慣れた物や好みの物を持参いただき、居心地よく過ごせるようにしている。	事業所が備えた空調と照明がある。利用者は、カーテン、ベッド、タンス、机、仏壇、テレビ、時計、飼っていたペットや家族などの写真、絵画など、思いおもいの物を持ち込んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの設計にしており、手すりの設置も充分にしている。ナースコールがあり必要に応じて使用している。		

事業所名	ニチイケアセンター横須賀市佐原
ユニット名	3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をミーティング時に唱和し、さらに各ユニットの入口に提示することで共有し意識付けに努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームの活動状況を伝えることや、文化祭で作品を展示させていただいている。 ・日々、ご近所の方に挨拶は欠かさずに出来ている。 		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設のパフレットを利用して地域の方からの相談を受け、活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催しその都度状況を報告している。又、意見や要望があれば、その後の業務に活かしている。		
5		市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	判断に迷う時や分からない事等は横須賀市高齢福祉課、地域包括支援センターへ助言を頂きながら進めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修を毎月行い、学ぶ機会を持っている。身体拘束をしないケアを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を毎月行い、学ぶ機会を持っている。虐待を見逃さない環境を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間行事に取り入れ、研修を行い学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行ないその都度確認をしながら納得を頂いた上で進めるように常に心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回顧客満足度アンケートを実施している。 ご家族様の訪問が難しい状況であることから、おたよりや電話で意見交換を行い、運営に反映をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、全体ミーティングと各ユニットでのミーティングを開催し職員が意見や提案ができる場を設けている。 ・必要があれば改善をしている。 ・連絡ノートを活用している。 		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個人面談を実地し、就業環境、条件等の確認をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染防止の観点から外部研修には参加していないが、社内研修を行うことで職員個々のスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新型コロナウイルス感染防止の観点から相互訪問や勉強会についてはできていないが、パソコンサイトを利用して情報交換を行なっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を使用して、ゆっくりと時間をかけながら聞き取りをするようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に十分な説明を行い、不安があればどんな些細なことであっても丁寧に対応し、不安を解消するように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	双方から話を伺いながらセンター方式を使ってアセスメントを行い必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ニチイケアセンター横須賀佐原の基本理念を常に意識するようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	オンラインによる面会、相談室を利用した面会で家族と本人を交えた環境で希望や要望等を聞き共に本人を支えていく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染防止の為、オンラインによる面会、相談室を利用した面会、電話でのお話しを通じてこれまでの関係が途切れないように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し席替えなどを行い支え合えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も電話相談等を受け付け、必要に応じ支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の表情、観察と会話の中でご本人の気持ちを汲み取りセンター方式を活用し一人ひとりがどのような希望を持っているか検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使用しご本人の気持ちから聞き取りで分からないことはご家族や以前関わっていたケアマネジャーからも聞き取りをして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用すると共に各ユニットミーティングで話し合いを行い現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族への聞き取りを行なうと共に医療関係者の意見も参考に職員とカンファレンスを行なう。日常支援シート評価の作成のもと介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、介護日誌に落とし込みユニットミーティングにおいて共有し介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療関係者のアドバイスを受け健康管理に努めている。また、定期的な口腔ケアの利用などもニーズに応じて取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止の為、外出が困難となっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を受けている。医療情報は職員間で共有、訪問看護師やご家族様にもお便りを通じて伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師にその都度、医療連携報告書へ記入していただいている。また、口頭での情報共有も行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は早い段階でご家族、病院側と連絡調整を行い早期退院に向けて病院関係者と連携を密に取るようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医と相談し、その結果をその都度ご家族へ報告をしている。また、今後の見直しなどを話し合い、方針の見直し、情報の共有に努める。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の訓練を行なっている。内1回は消防署立会いのもと訓練し急変や事故発生時の対応など職員は実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。地域（会長・民生委員）からアドバイスを受け訓練の時に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コンプライアンスや高齢者虐待防止の研修を行なうと共に、フロアミーティングでも確認している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	雑誌や本などを活用しながら話しの中で希望、自己決定ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望があればその都度対応している。又、希望が訴えられない方には、アセスメント、介護記録等からリズムの把握に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人希望の化粧品、衣類など本人、家族と相談しながらおしゃれができるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事にあった食事を提供している。また、盛り付けなど目でも楽しめるように心がけている。食事準備などできることへの支援を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養スクリーニングシートを作成している。個人記録や水分表を確認し水分補給が思うように取れない場合は、本人の嗜好に合わせた飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを声かけ、実施している。また、歯科医師の助言、指導のもと口腔状態の把握に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維などを食事の中に取り入れる等、食材業者や医療関係者に相談し予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴表を活用し、ご本人様のタイミングや体調に合わせた入浴ができるように支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣を尊重し、日々の体調変化を見逃さないように努めている。さりげなく休憩を促すなどの支援をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ファイルを活用し、職員がいつでも回覧できるようにしている。処方変更時には申し送りをし、介護日誌を活用して情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションの提供。センター方式をもとにそれぞれができることへのサポートを支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症予防の観点から現在はできていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルス感染症予防の観点から外出をしていない。現在はできていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人、家族からの電話、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節、イベントに応じて飾りつけなどを行い、共有空間の工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓側部分に共用空間があり、過ごす事ができる。個々の居室でも自由にすごしていただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時にご本人、ご家族と相談をしながら、使い慣れた物や好みの物を持参いただき、居心地よく過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの設計にしており、手すりの設置も充分にしている。ナースコールがあり必要に応じて使用している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ニチイケアセンター横須賀佐原

作成日 2020年 12月 29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	日常的な外出支援	新型コロナウイルス感染症後、外出の機会を増やす。	新型コロナウイルス感染症観点から現状は難しい。	新型コロナウイルス感染症収束後
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。